

## Joint Studio 4 「SHOW」

期間： 2023年9月2日～9月10日

場所： ノルウェー、オスロ（オスロ国立芸術大学キャンパスおよび市内、オスロ国立美術館、  
ビグドイ王立農園、オスロ・イベント・ハブ）

参加者： **Prof.Kirsti Bræin** (Fashion and Costume Design, KHIO)/**Prof.Toni Kauppila**(Interior Architecture and Furniture Design, KHIO)/ **オスロ国立芸術大学学生14名** (KHIO)/  
**川井由夏教授**（生産デザイン学科・テキスタイルデザイン専攻 / **河崎日菜子助手**（生産デザイン学科・  
テキスタイルデザイン専攻 / **プロダクトデザイン専攻学生4名** / **テキスタイルデザイン専攻学生3名** /  
**大学院テキスタイルデザイン領域1名**

概要： オスロ国立芸術大学デザイン学科と多摩美術大学生産デザイン学科の国際交流プロジェクト〈CONNECTING WOOL〉の Joint Studio 4 を実施。多摩美術大学教員2名と学生8名がノルウェーに渡航、プロジェクト最後のテーマ「SHOW」に基づき7日間の集中ワークショップを実施し成果発表を行った。

背景： ノルウェー教育国際協力センター (SIU) の UTFORSK Partnership Program( 人物相互派遣を通して高等教育機関の国際交流推進を目的とする4年間の助成プログラム) に2018年度採択された〈CONNECTING WOOL〉プロジェクトを開始。ノルウェー北部に生息する北方固有種の羊の毛の新しい素材活用方法を探究しながら学生および大学間の国際交流を深める。2018年、2019年と活動しコロナ禍で中断後、2022年秋よりオンライン上で活動再開、2023年3月に Joint studio 3 として対面で作品制作を実施した。

報告： デザインスタジオ「フォルマファンタズマ (Formafantasma)」による羊毛と生産の歴史に関する展覧会「Oltre Terra. Why Wool Matters」と、オスロ芸大学生が東京での体験を反映させた共同作品をオスロ国立美術館で見学、対岸の小島へ渡り夕食を共にした。東京から運んだ joint studio 3 で制作した作品を実習室で振り返るとともに、これまでの活動の軌跡を確認。テーマ「SHOW」に基づきプロジェクトの成果をどのように見せ伝えるかを話し合う。シンポジウム「TALKING MATTER」が開催され、素材のもつ言語についてデザイナーとアーティストがプレゼンテーションを行う。その後、羊を直に観察するため有機酪農生産地であるビグドイ王立農園を訪問。農園は文化的景観の管理、自然価値・有機畜産などの普及、その回路の可視化などを目的として運営。翌日よりデザイナーズサタデーに向けて展示の最終検討、作業に集中した。デザイナーズ・サタデーは、ノルウェーで重要なデザインとインテリア建築の専門的な最新情報の交換の場として機能する。学生は、オスロ芸大学長、在ノルウェー日本大使館関係者などを含む多くの来客に対応し交流した。9月21日から10月9日まで、オスロ国立美術館併設の国際ファッションリサーチライブラリーにて、(International library of Fashion Research) シンポジウム「DESIGNING BEYOND HUMAN」の関連企画としての展覧会、Joint Studio 1～4の作品や写真を展示。最終的に2018年から2023年の活動を冊子にまとめ完了する。

